

響きあい Vol.8

令和元年 7月
夏号

みんなの「生きる」を
社会福祉法人



老人福祉施設カリヨンの郷
施設長 早川直也

「令和」の時代を迎え

新時代を迎えるにあたって、少し苦言を呈したいと思います。

国民全てがお祭り気分に含まれる「新時代」を迎え、国全体が高揚感に含まれることは理解できませんが、何か少し違和感を感じるのは私だけでしょうか？

平成から令和に変わるときに、カウントダウンが行われ、さながら「若者のハロウインの喧騒」のデジャブを感じました。また、橋の上から川へダイブする輩が現れるなど、内輪受けだけで周りが全く見えていない。

売上期待から、高速道路のSAでは「令和」のロゴ入り土産がうず高く積み、また、巷では「令和をキャッチフレーズ」にした売り出し広告も盛んに行われています。新時代に対し、期待感ばかりではなく、この機会に、「令和について」冷静に考えることが必要ではないかと思えます。最近の話題では、交差点にベッドを運び出す人の動画の拡散があり、節操無い若者に残念でなりません。新天皇即位に関して、天皇陛下のみならず、新皇后陛下

もにこやかに振る舞われ、その様子に心から安心された方も多かったと思います。「平成時代」は大規模な自然災害が多く発生しました。例年地震や、台風などの被害が多い日本は新時代を迎えても同様な自然災害は相変わらず多く発生すると思います。



私の思いとして、昭和時代に第一線で活躍された方々に対して、今日の平和な日本について、改めて見つめ直してほしい。以前この「響きあい」でも触れましたが、「新幹線」しかり、「東京タワー」・「黒部ダム」・「青函トンネル」や三重県の「御在所ロープウェイ」など、東名高速道路を始め高速道路整備事業の建造物は、モノや技術に加え法令順守の概念すらない時代、本当に職人やチームの一員としての「矜持と気概（心意気）」でもって成し遂げられました。一昔前のNHKのテレビ番組「プロジェクトX」は、正にその時代を照らし、中島みゆきさんのテーマ音楽と田口トモロヲさんの語りによって感動が蘇ります。昭和時代に活躍された高齢者を厄介者として扱うのではなく、「知恵袋」の達人として、リスペクトしてもらいたいものです。

